

◆1999年度CIEC定例総会報告

日時 1999年8月6日16時20分から17時10分 場所 信州大学工学部共通講義棟 102番教室 出席 本人出席 56名（個人会員52名、団体会員4） 書面出席78名、委任状に

議事

1. 総会成立の確認 ・会長より指名された司会者三根浩理事（同志社女子大教員）開会を宣言。司会者より会員数649名（568名、81団体）、成立要件65名以上の出席に対して、委

2. 議長、副議長の選出 ・司会者より、理事会からの議長団推薦の紹介。議長に新潟大学の小林昭三会員、副議長に高知 女子大学の一色 健司会員の推薦が告げられ、ほかに立候補は

3. 奈良 久会長より開会のあいさつ

4. 議事運営に関して議長より提案 ・効率よい議事運営のために以下の提案があり、拍手で確認した。

提案-----役員選挙以外は連続して提案し、提案後一括して討議。 採択-----議案ごとに個別に採択、議案はすべて出席者の過半数の賛成で議決

5. 議案1 ・「98年度事業報告と99年度事業計画」の提案を信州大学の矢部正之副会長より行った。

6. 議案2・3・4 ・議案2「98年度収支報告」、議案3「98年度収支差額処分案」、議案4「99年度予算案の提案」を一括して立命館大学の松田 憲副会長より提案した。

7. 監査報告 ・議案2に関する監査報告を朝岡良平監事より行った。

8. 意見用紙の紹介と回答 ・書面議決とともに提出された6通の意見用紙の紹介と回答を矢部 正之 副会長より行った。

9. 討論 ・全議案を一括して行った。 議案2について意見。

学術団体とNPO法人と両立させられるかどうか前向きに検討して欲しい。

-----学術団体登録と法人化とは別個の問題として進めている。法人化問題は中期目標検討の中で 論議していく旨理事会より回答された。

10. 議案の採択 ・議長より議案採択の説明 採択は、議案ごとに連続して委任状含めて挙手でを行い、出席者の過半数 の賛成で議決。 書面出席78を加算する。 議案1から4まで

11. 議案5 ・議案5「役員補欠選挙」について、議長より選挙管理委員会に報告を求めた。 石巻専修大学の綾皓二郎選挙管理委員長より以下が報告された。役員補欠選挙は、CIEC 確認において行った。選挙権、被選挙権はともに、立候補の 締切までに98年度の会費を納入した方で、個人会員412名、団体会員72名、合計484名であった。 6月7日に選挙管理 学 榎 本一夫氏、京都工芸繊維大学 山田 祐仁氏の3名が任命された。6月15日-役員補欠選挙公示。6月30日-正午に 立候補締め切り。

立候補が定数内で立候補は生田 茂氏一名であったので、信任投票であることを選管で確認した。 また投票の方法は、すべて郵送によるものとし、7月1日に発送した。投票は7月1 開票は15時50分より、選管の管理のもとで立会人をおき厳正に行った。

開票の結果-----投票総数159票、有効投票155票、無効4票。過半数により信任された。

12. 役員承認 ・選管より報告された役員補欠選挙、及び役員補欠選挙の結果について拍手で確認された。

13. 新役員の紹介 ・会長より生田新役員の紹介を行った。

14. 閉会 ・17時10分 一色副議長よりすべての議事終了が告げられ、議長団の解任とCIEC99年度定例総会の 閉会が宣言された。（なお、総会の報告、理事の補欠選挙結果の報告 が欠落していたことを選管、議長副議長の確認を得て、ここに補正した。） 定例総会の書面議決に添えて提出された意見書6通について、総会会場で、矢部副会長が回答して います

議案1：98年度事業報告と99年度の事業計画

1 98年度事業報告

本年度はCIECが設立されてから4回目の総会を迎えることができました。98年度はCIECの3年目に ふさわしい事業や活動が展開できた年として評価することができます。

まず、前進した事業について確認しておきます。第一は、CIECの研究大会としての位置づけを もつPCカンファレンスのいっそうの充実です。PCカンファレンスはCIECの設立以 来、本年度は分科会報告だけで過去最高の90本の報告が集まり ました。報告内容も多様な分野にわたり、非常に充実したものとなっています。

第二は、CIEC研究会の充実です。本年度は計8回の研究会を実施しました。特に活発に行われた のが「小中高の情報教育」をめぐる研究会で、これには毎回会員以外にも多くの教 育 者 が参加し、恒常的に進めて行くために、「小中高等学校での新しい学びの創造 ――K-12と大学との壁を超えて」という部会が設立されました。

第三は、CIECタイピングクラブの取り組みの前進です。本年度は新しく増田式を組み入れた ウィンドウズ版が開発されました。現在、そのマック版の開発も進行中です。さらに、 4月の新学期における利用は鹿児島大、純心女子短大、福岡 工業大、愛媛大といった一部の大学に限定されましたが、タイピングクラブが教育用ソフトとして 整備されるにしたがって ます。

第四は、アップル株式会社と共催のセミナーの開催です。6月12日の東京での開催を皮切りに、一連のセミナーが開催されました。これは、団体会員との新しい形態の取り組みとし

第五は、学術団体登録です。これまでのCIECの活動実績を基礎に、本年5月に教育系学会として 登録申請をいたしました。本年度にすぐ認可されるかどうかはわかりませんが、もし 申請を行います。

他方、個人・団体会員とも会員の拡大は依然として前進をみるできませんでした。現在の 個人会員数は<別表>のとおりです。本年度の新規加入個人会員74名、退会87名で た、新規加入団体会員12団体、退会2団体です。今後、CIECの活動を 安定的に進め、さらにその活動を広げて行くためには、個人会員・団体会員の拡大をより意識的に 強めて行く必

なお、昨年度の総会においてCIECの中期的な目標を検討するためのワーキンググループを設置（「CIECのさらなる発展をめざすために、3年間の活動を総括し、新たな目標を確定」ため、「中期目標検討委員会」が設置されました。

2、99年度の事業計画 99年度においては、（1）委員会を軸とした活動を引き続き強化していくこと（2）個人会員・団体会員の拡大に積極的に取り組むこと、（3）「中期目標」中心的な課題になります。

（1）については、各委員会の報告において具体化されているので、ここでは具体的な内容については省略しますが、特に2000年度においては、以下の点を目標にCIEC研究会の充実開催を増やします。・企業関係者が参加できる研究会を増やします・恒常化できるものは部会として運営して行きます。

（2）の個人会員の拡大については、会員による勧誘と紹介が基本になります。この点を踏まえながら、運営委員会・理事会内においてしかるべき体制を整備します。団体会員につきやすい形態の企画を増やしながら、小口会員の拡大に努めます。

（3）については、「中間答申」を基礎に「答申」の完成をめざします。「中期目標検討委員会」での議論を基礎としながら、アンケート等を利用し、個人会員・団体会員全員の声が見えも積極的に取り入れるようにします。

＜個人会員＞

	会員数	構成比
教員	368	65.1
大学職員	24	4.3
院生	27	4.8
学生	7	1.2
生協職員	106	18.8
企業	21	3.7
研究員	5	0.9
その他	7	1.2
計	565	100

＜団体会員＞

	団体会員数	構成比
企業	33	40.7
生協	48	59.3
計	81	100

決算報告書につきましては都合により省略させていただきました。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

【資料】

1998年度CIEC会計状況について

1.収入について 1) 会費収入

○個人会費----1998年4月1日～1999年3月31日間で、4000×65、3000×12の会員増です。「但し、会員数については、設立時呼びかけ人になったものの、会員としては続けてい削除したため、ほぼ昨年と同数になっている。」

○団体会費----不況の影響があって97～98年にかけて、団体会員の会費減額が300万円相当あった。当初、20口ほど、団体会員を拡大する予定で予算化したが、組織的取り組みがで

2) その他の収入 昨年より10万円強多く、予算とは同規模。ただし中身は広告掲載料ではなく、書籍の売り上げ等である。

○広告掲載料----意識的に集めることはできなかった。

○雑収入----「コンピュータ利用教育の新しい方向」の売り上げ収入、会誌抜き刷り収入その他である。

○プロジェクト事業収入----タッチタイピングテキストに関する収入である。

2.支出について 事業費 1) 会議費----昨年にくらべて140万円減、予算と比べて150万円減である。運営委員会を中心に、会誌編集委員会以外の各専門委員会を全面的に押さえた。

○総会----総会開催のための会員連絡費、監事会費用、役員選挙関係費など。

○理事会----98年は2回開催している。今後は役員選挙がない年は、年1回であとはメーリングリストでの討議とする。

○会議費について----運営委員会は当初数回を予定していたが、メーリングリスト会議に切り替えた。ネットワーク委員会、ソフトウェア委員会は各1回、国際活動委員会はメーリングした。（9月末から10月中旬にかけてのメールによる運営委員会、理事会の中で、会議費を極力削ってプロジェクト活動に経費を回す事を確認し、実行に移されたためである。）2) 印刷費----組んだのは、取材費を別途確保したためである。実際はほぼ予算内である。3) ニュースレター発行費----昨年のほぼ倍、予算の23万円増。通常号4号の他、研究会の活発化に伴う、増えた。4) 広報費----拡大リーフは97年度費用で作っているため、追加印刷分のみになっている。5) 研究会費----昨年の30万円増、予算の15万円増となっている。地域研究会はPCカンる三宅 なほ氏講演会とシンポジウム。研究会は第5回から11回 パート2まで計8回実施、講師および報告者、世話人の交通費など、1回5～7万円相当が必要である。6) 調査費----を作ることができなかったため、90万円残した。7) 事業活動費----昨年度管理費の中に含まれているのを、98年度では抜き出したもの。会長、副会長や理事の会議ではない事業活

をするより 打ち合わせに動くことの方が大きい。事業委託費は今後、増加の見込みです。 8) プロジェクト事業費----昨年度は単年度事業費として組み立てている。9月～10月にかけて正予算として同規模を提案したが、98年度は、中期 目標検討ワーキンググループ、タッチタイピングと小中高大連携の情報教育（学びの創造）部会 たち上げプロジェクトに主要なエ

管理費

97年度は98年度の事業活動費60万円分を含んでいる。全体として予算とおりである。ネット ワーク運営費は、回線使用料が98年10月より値下げになったため抑制されている。事れば、自然に増加するものであり、抑制は難しい。備品費は、主に、 これまでMacintoshのみであった事務局のコンピュータに、会員の環境も考慮して、Windows機を 加えた費用で

予備費

CIEC設立時の商標登録の申請が調査に時間を要し、遅れて許可申請の費用が発生した。

監 査 報 告 書

CIEC（コンピュータ利用教育協議会） 会長 奈良 久 殿

1999年5月20日

監 事 朝岡 良平 倉田 是 今国 喜栄

私達は、CIEC（コンピュータ利用教育協議会）会則13条にもとづき、本会の第3年度（自1998年4月1日至1999年3月31日）収支計算書を監査しました。 この監査にあたっては、必ず監査手続きを 実施しました。 監査の結果、収支計算書は、正確であることを認めます。

以上

繰越金処分ならびに予算報告書につきましては都合により省略させていただきました。詳細につきましては事務局までお問い合わせ下さい。

1999年度CIEC予算についての補足説明

- 1. CIEC理事会は、第3年度会計監査における監事会の監査意見を踏まえて、第4年度の予算案策定 に当たって、以下のような改善を行った。
- 2. プロジェクト事業（単年度）の一環として、第3年度ではCIECタイピングクラブに対して50万円が 支出された。

このソフトに採用した「増田式キーボード学習法」技術については、利用実績やその効果を判断 した上で利用を継続するかどうかを判断することになるが、今後も利用を継続すると 払う契約となっている。今後も利用を継続するとすれば、一定数の 利用者を確保し、この支払い費用を回収する必要があるため、CIEC本来の事業活動とは切り放し、 別個に独立した した。

「教育出版」の項目の細目は、今後の事業活動を見通して、書籍出版とタイピングクラブの2つ とした。

- 3. その他は前年の基調を引継、会議費用を極力抑え、活動に力をいれる配分で組み立てている。

議案5：役員補欠選挙の件

【資料1】CIEC活動日誌

1998年

- 7月10日 PCカンファレンスニュース9号発行
- 7月14日 PC連合会内会議。事務用品発注準備
- 7月17日 PCカンファレンスニュース10号発行
- 7月18日 企画調整会議
- 7月19日 大学生協政策討論集会にブースを出す
- 7月21日 PCカンファレンス内局打ち合わせ会議
- 7月23日 名簿完成／しおり原稿集め完了／ニュースレター別冊発行
- 7月24日 役員選挙 開票
- 7月25日 書籍「教育におけるコンピュータ利用の新しい方向」発行
- 7月27日 97年第2回理事会／企画調整会議／PCカンファレンスニュース11号発行
- 7月28日 98年定例総会
- 7月28～30日 PCカンファレンス当日
- 8月3日 ブース出展社お礼状とアンケート発送
- 8月24日 ブースアンケートまとめ／宣伝まとめ
- 8月25日 98PCC連合会内会議
- 8月28日 カンファレンス企画調整会議
- 9月3日 98PCカンファレンス実行委員会
- 9月4日 98年第1回理事会CIEC拡大事務局会議／ ニュースレター別冊（第5回研究会報告・総会報告）発送
- 9月11日 science@ciec.or.jpのMLを設定

9月16日	98PCカンファレンスまとめ確定
9月29日	大学図書館に会誌バックナンバー贈呈（この時期はPCカンファレンスに関する動きが半分以上をしめます）
10月1日	全国大学図書館へ会誌贈呈
10月3～4日	西日本教職員交流会（京都）ブースを出す
10月15日	ニュースレター8号発行
10月25日	山口大学講演会（三宅 なほみ氏講演とシンポジウム、CIECとしての講師派遣）／PCカンファレンス連合会内会議
10月31日	第7回研究会“情報教育の2000年問題”その1 99PCカンファレンス実行委員会準備会
11月14・15日	北甲ブロック教職員交流会（長野開催の協力依頼）
11月28日	第8回研究会 99PCカンファレンス第1回実行委員会（開催日程・テーマ・運営体制等）
12月2日	会誌VOL 5発送
12月11日	PCカンファレンス連合会内会議
12月17日	ニュースレター別冊NO3（第7回研究会）発行 98PCカンファレンス報告集発行／99PCC開催案内／レポート募集案内発送
12月19・20日	全国大学生協連第42回通常総会（ブースとセッションをひらく）
12月24日	PCカンファレンス連合会内会議
12月26日	中期目標検討ワーキンググループ／小中高校、大学の情報教育プロジェクト 世話人会 第9回研究会「2003年に向けた初等中等教育における情報教育とCIECの役割」
1999年	
1月13日	PCカンファレンス連合会内会議
1月19日	会誌保管用朝霞倉庫／東洋大生協訪問
1月21日	PCカンファレンスニュース NO1発行
1月22日	PCカンファレンス連合会内会議
1月23日	教育工学研究会（長野）で、PCカンファレンスの呼びかけ 矢部副会長
1月26日	PCカンファレンス連合会内会議
1月27日	会誌 VOL6 村井先生インタビュー
1月30日	第10回研究会「新しいテクノロジー」 第2回PCカンファレンス企画運営委員会／ネットワーク委員会
2月9日	学術研究団体申し込み説明会（事務局参加）
2月10日	PCカンファレンスニュース NO2
2月15日	PCカンファレンス連合会内会議
2月19日	PCカンファレンス分科会司会者募集CIECメーリングリストへ
2月23日	CIEC／PCカンファレンス メーカー説明会（奈良会長、小林専務）
2月26日	PCカンファレンスニュース NO3
3月2日	PCカンファレンス連合会内会議
3月8日	会誌 VOL6 特集座談会
3月10日	八王子高校訪問（生田世話人、事務局）
3月13日	第11回研究会「情報教育の2000年問題その3」／小中高部会打ち合わせ
3月14日	PCカンファレンス分科会時間割編成会議
3月15日	分科会レポート採否連絡
3月19日	PCカンファレンス連合会内会議
3月20日	第3回PCカンファレンス企画運営委員会
3月21日	会誌編集委員会
3月27日	経済教育学会にて「コンピュータ教育のあたらしい方向」紹介 湯浅理事
3月29日	CIEC TypingClub準備と宣伝
4月3日	CIEC事務局会議、CIEC第11回パート2研究会「情報教育の2000年問題その3」
4月8日	PCカンファレンスニュース NO4
4月12日	'99PCカンファレンス参加者募集開始
4月14日	ニュースレターNO9入稿（会費請求書同封）
4月15日	PCカンファレンス内局会議
4月20日	ニュースレターNO.9発送、PCカンファレンスリーフ掲載原稿締切、 青山学院高等部訪問
4月21日	PCカンファレンスポスター、ちらし出来上
4月22日	中期目標検討ワーキンググループ
4月30日	1998年度CIEC会計監査
5月7日	PCカンファレンスニュースNO4／ホームページ追加修正／学術団体登録申請 準備
5月8日	PCカンファレンスリーフ入稿／PCカンファレンス受付名簿等準備
5月10日	PCカンファレンス内局会議
5月11日	会費の自動引き落とし用データ準備
5月13日	首都圏の大学にPCカンファレンス案内送
5月14日	PCCリーフ出来上がり

5月17日	PCカンファレンス出展メーカーに資料送付
5月18日	各大学生協にPCCちらし／リーフ発送
5月20日	CIEC会計監査／運営委員会に向けて各専門委員会の活動のまとめの準備要請
5月21日	日本学術会議への団体登録申請 受付No.441／長野版チラシ作成
5月25日	会誌Vol.6発行 会員・執筆者へ発送
5月26日	会費納入リスト作成
5月27日	PCカンファレンス内局会議
5月28日	CIEC運営委員会、研究会資料作成
5月29日	CIEC第12回研究会／PCカンファレンス第4回企画運営委員会
6月3日	PCC長野打ち合わせ
6月4日	ホームページにお知らせ追加
6月7日	分科会司会者決め
6月8日	PCカンファレンス出展メーカーとの交渉
6月10日	PCカンファレンス連合会内会議
6月12日	CIEC第13回研究会／アップル社との共催セミナー／ps-ed 世話人会開催／選挙管理委員会
6月13日	ネットデイ長野県塩尻中学校
6月14日	長野版リーフ作成
6月15日	役員補欠選挙公示／選挙公示はがき郵送
6月23日	CIEC宣伝用拡大リーフ作成（新）
6月24日	PCカンファレンス連合会内会議
6月25日	PCC長野実行委員会
6月26日	アップルセミナー（大阪）CIEC共催
6月30日	PCC予稿集原稿締め／役員補欠選挙立候補締め
7月1日	総会資料／投票用紙発送

 メーリングリストでの決定事項

◆運営委員会◆

98.9.28提案/10.7確認 [execucomm 00149] 予算の執行とプロジェクト活動について 9月4日事務局会議での討議を経て、運営委員会で検討し監事会の見解も求めてからまとめまし

98.10.16提案/10.23確認 [execucomm 00155] 「CIECware宣言」 CIEC（コンピュータ利用教育協議会）は、教育・研究の現場において価値が認められる、あるいは、利用の可能（画像等も含む）の流通・共有化を支援するため、CIECという「知の協同組織」の中で生まれ育っていくソフトウェアやドキュメント（画像等も含む）を集積し、普及する活動を行・メント（画像等も含む）を「CIECware」という名称で呼ぶことを提唱します。

98.12.1提案/12.8確認 [execucomm 00202] 「CIECTypingClub」増田式契約書「増田式キーボード学習法」に関する技術の 利用に関して契約を締結しました。

98.12.18提案/12.25確認 [execucomm 00204] 「中期目標検討ワーキンググループ」 一色 健司（高知女子大学生生活科学部） 指宿 信（鹿児島大学法文学部法政策学科） 大野 ； 野高等学校） 匠 英一（株式会社ヒューコム） 奈良 久（八戸工業大学工学部） 野澤 和典（立命館大学経済学部） 湯浅 良雄（愛媛大学法文学部） （50音順、敬称略） なお、て確認されています。

・CIECの中期的な目標・団体としての組織のあり方 ・PCカンファレンスのあり方・総会のあり方 ・地域組織のあり方・団体会員のあり方 ・財政基盤の検討 ・その他

98.12.21提案/12.28確認 [execucomm 00209] 学術団体登録とISBNコードを登録

99.1.9提案/2.3確認 [execucomm 00218] 求人情報と求職情報の問い合わせについて

99.1.13提案/1.20確認[execucomm 00220] 新しいプロジェクトの設置について「小中高等学校での 新しい学びの創造」部会（仮称）ーK-12と大学との壁を超えてーのたち上げが

99.1.19提案/1.26確認 [execucomm 00221] CIEC Typingclubの著作権使用について

99.2.3提案/2.10確認 [execucomm 00225] 求人求職情報の扱い修正案 について

99.5.9提案/5.20確認 [execucomm 00236] 決算状況の見通しと機材の購入について

99.5.10提案/5.16確認 [execucomm 00238] アップルからセミナー共催（6/12）の申し入れがあり受諾いたしました。

99.6.11提案/6.18確認 [execucomm 00248] CIECのネットデイ趣意書案について

99.6.22提案/6.29確認 [execucomm 00250] ホームページのつくりについて 総会、役員選挙など運営のコーナーの新設及び 項目の整理について助言がありました。

99.6.22提案/6.29確認 [execucomm 00252] 柏書房との覚え書き更新について

◆理 事 会◆

98.9.28提案/98.10.5確認 [directors 00057] 99PCカンファレンスCIEC選出実行委員 奈良 久、CIEC代表として／三根 浩、小野 進全体会・シンポジウム担当 若林 靖永、

カーブス担当／矢部 正之 開催校選出として

98.10.8提案/10.15確認 [directors 00058] 予算の執行とプロジェクト活動について

98.10.31提案/11.19確認 [directors 00063] 中村理事、辞任願い提出。なお、中村 彰氏は、会誌編集委員としての活動を 継続されます。

98.11.25提案/12.2確認 [directors 00065] シンポジウム・テーマについて

98.12.24提案/99.1.8確認 [directors 00068] 中期目標検討のためのワーキンググループの設置についてこの議案は一人づつ 採否を問うています。

99.4.6提案／4.13確認 [directors 00097] 学会会議団体登録 98.12.28運営委員会において確認の後。

99.6.1提案/6.8確認 [directors 00101] 98年度の決算報告と99年度予算案 5.28の運営委員会において検討、作成されました。

99.6.1提案/6.7確認 [directors 00103][directors 00104] 補欠選挙の必要、及び理事会指名による選管任命の会長への一任。

【資料2】 ネットワーク利用委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

◆1998年度活動

1998年度の活動方針は、基本的にこれまでのネットワーク利用サービスの維持と増強を中心に 据えました。委員および事務局の努力で情報更新の強化が計られ、新たなMLの利用用
現有のCIEC専用サーバに加え、新たなサーバが導入され、また、2000年問題への対応も 取られました。これらにより、通信速度の改善・サービスの増強と安定が計られました。

しかし、マルチメディアサービスやCIECware/text等の本格運用を目指しましたが、体制を固め きれず、ある程度の情報の蓄積は進んだものの、目標としたレベルまで至りません
た活動への支援も提案しましたが、2、3の例は取り組まれましたが、これについても、十分な活動ではありませんでした。積極的な会員への呼びかけが効果的に 行われなかった。

◆1999年度活動方針

基本的には、これまでのネットワーク利用サービスの維持と増強を中心に活動します。より 安定した、豊富なサービスの提供に努力します。

また、会員の多種の要望に応えられる、ハードおよびソフト・運営の態勢を整えるとともに、 会員の積極的な関与が得られるような広報等を検討します。

継続した課題であるマルチメディア サービスやCIECware/textの取り組みについて、会員、各委員会の協力の下充実に努めます。

【資料3】 ソフトウェア委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

◆1998年度活動

1998年度は以下の方針のもとに活動を行いました。(1)「ソフトウェア・レビューと交流の 広場」の設置と推進 (2)CIECware活動の推進 (3)CIEC会誌ソフトウェアレビューの担当
の検討

以上の方針に対し昨年度は以下のような状況でした。

(1)「ソフトウェア・レビューと交流の広場」の設置と推進

十分な準備を進めることができなかったため、活動の展開を行うことができませんでした。

(2)CIECware活動の推進

「CIECware活動」の理念とCIECware/textの取り扱いを明示した 「CIECware宣言」を成文化して公表し、CIECware活動の指針を定めました。また、CIECの 1998年度プロジェ
進プロジェクト」において 取り扱ったタッチタイプ練習用ソフトウェアをCIECwareの先行事例として位置付けて、その 普及に取り組みました。

(3)CIEC会誌ソフトウェアレビューの担当 会誌第5号および第6号のソフトウェアレビューを 担当しました。しかし、(1)「ソフトウェア・レビューと交流の広場」の活動の停滞も
に有用なソフトウェアを発掘し広く紹介する活動に発展させる ことができませんでした。

(4)CIECとしてのソフトウェア開発のあり方の検討

外部からの開発資金の導入、教育ソフト開発などを目的にした産学協同プロジェクトへの支援 体制の整備などの提案がありましたが、検討は進みませんでした。

◆1999年度活動方針

1998年の振り返りをふまえ、1999年度は以下を重点として活動を進めます。(1)ソフトウェア 情報の交換、交流、評価活動の推進、電子メール、ネットニュース、ウェブページな
利用して、ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動を進め ます。

(2)CIECware活動の推進

引き続き、先行事例の推進による経験の蓄積を行うとともに、「CIECware宣言」の普及を 行いながら、CIECware活動を推進します。

(3)CIEC会誌ソフトウェアレビューの担当

ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動の成果の中から総合的な内容のソフトウェア レビューが生み出されてくることを期待しつつ、引き続きCIEC会誌ソフトウェアレビュー欄の担当として活動してまいります。

【資料4】国際活動委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

◆1998年度活動

- (1)海外研究団体、学会などからの最新の情報の入手と会員への提供の取り組み
- 会員の海外学会での活動や調査活動で得られた最新の情報を、メーリングリストや会誌 などの場を通じて交流する。
- CIECの国際活動委員会のWebページを改善し、コンピュータ利用 .教育に関連した国際 学会の開催情報などの提供を会員の協力を得て行った。

(2)海外学会、研究団体との交流活動

CIECとしての海外派遣調査は出来なかったが、奈良会長が、1月29日韓国のWoosuk大学で 開催された研究学会に招聘され、「日本の情報教育2000年問題」のテーマで発表がなされた。

◆1999年度活動方針

- (1)海外研究団体、学会などからの最新の情報の入手
- コンピュータとネットワークを活用した 新しい共同学習型教育の事例調査を今後も進めていく。
- (2)海外研究団体、学会との交流、研究会や講演会の開催 直接海外に出かけて調査するだけでなく、CIEC会員が海外出張や留学などで得られている 情報を共有するシステム作りをホームページなどを活用して、検討する。カンファレンス委員会と共同の取り組みとして、海外研究団体、学会等の状況を知らせるための研究会や講演会を開催する。
- (3)CIECのWWWホームページを活用した広報、情報交流活動

【資料5】会誌編集委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

◆1998年度活動

- (1)総括 『コンピュータ&エデュケーション』誌は、これまでに6号（創刊準備号を含めれば7号）を 刊行することができました。いまや本誌は、対外的にはCIECの顔として、また：役割を担うようになりました。発行部数は3500部で、このうち 1500部が会員用、2000部が市販用として活用されています。市販用は創刊号以来、発行元の柏書房 ルートを通じてイまでは安定した、着実な売れ行き とのことで、「学術書としては健闘している」との評価をいただきました（売上実数は別紙資料を 参照ください）。
- (2)編集体制 第3号より特集責任体制にしました。これは各編集委員の専門性を発揮しながら独自の観点から 編集するという趣旨でした。各号につき、特集にふさわしい内容となる 委員が2名増えました。比較的手薄だった文科系および英語論文と英文 サマリーへの対応を脱んだ語学系の委員にお願いしました。 査読については雛形を作成し、 査読者による個人 する懇切丁寧な査読もあり、 査読を通じた研究交流も成果としてあげられます。
- (3)巻頭インタビュー 第2号から「巻頭インタビュー」を常設しました。読み物としての性格と問題提起をしてもらう という趣旨はその後一貫し、本誌のひとつの看板になりつつ、第2号・坂村 健、第3号・中西 秀彦、第4号・古瀬 幸広、第5号・奥山 賢一、 第6号・村井 純。 今後、計画的に語り手を確保すること、内容によってはインタビューの複
- (4)特集 創刊準備号以来、各号において特集を組んできました。創刊準備号では「米国と日本の高等 教育におけるコンピュータ利用教育の実際」、第1号では「コンピュータ利用教育の実際」、第3号では「日本の大学における外国語教育」、 第4号では「自然科学教育へのコンピュータの利用」、第5号では「小・中・高校における新しい 学びの紹介」、第6号で でした。上記のように、 第3号から特集責任体制のもと、編集委員の一人が持ち回りで担当することにしました。各編集 委員の創意溢れるテーマのもと、論点を掘り下げた追求が可能 誌の特色を示す企画として好評であり、今後とも多様なテーマを追求していくことが 期待されます。
- (5)論文・活用事例・ソフト紹介など 巻頭インタビュー、特集を除く常設欄は、論文・活用事例・ソフト紹介です。論文は、 創刊準備号7本、第1号3本（ほかに5本の事例研究）、第2号3本、第6号7本です。活用事例は、創刊準備号3本、第1号4本、第2号5本、第3号1本、 第4号1本、第5号1本、第6号1本です。ソフト紹介は、創刊準備号5本、第1号4本、第2号2本 本です。 発行当初はほとんどすべてが依頼稿でした。徐々に投稿が増え、第6号では論文・活用事例は すべて投稿で構成されました。論文・活用事例は、投稿後の査読によって割り 投稿してもらえる誌面構成を考えると、活用事例の充実は不可欠です。 第5号より「新刊紹介」コーナーを新設しました。取り上げた出版社から書籍の寄贈があったほか、会員外か 本誌の普及にも力になるはずです。ソフト 紹介は、ソフト委員会と連携をとりながら、使用する側からの検証という点を重視して、掲載して きました。ソフト委員会の活動の発表の場
- (6)広告・宣伝 柏書房の出版案内のなかで、本誌が紹介されてきました。編集委員会としては第5号刊行後数冊 の雑誌に独自広告（約10万円）を出しました。
- (7)既刊号の保存 会員用の残部および柏書房分の在庫につき、この度保存場所を確保できました。本誌の普及の ために見本誌としての活用、研究会・学会時の販売用として一定有効
- (8)事務局体制 テープ起こし・校正・執筆者と査読者との連絡など多様な業務を遂行していただきました。 第6号まで無事発行には編集委員の努力もさることながら事務局の力が大い
- (9)その他 毎号、予想以上に抜刷希望が多くなってきたため、第6号から制作量実費の1割を手数料として お願いすることになりました。本誌の出来上がりとともに執筆者に注文
-

◆1999年度活動方針

- (1)編集体制と誌面構成 これまでの編集体制と誌面構成を基本的に踏襲していきます。 年間約20本の投稿が安定発行の条件になりますので、PCカンファレンスを中心に、編集委員の

第7号より編集委員会として「依頼書」を作成して対応していきます。事務局との連絡を密にするために、都内と周辺の編集委員の人数を増やし、事務局への助言・サポート体制を協職員の執筆者は2名だけであり、CIECの構成メンバーに比例したものとはなっていませんでした。学術的側面を保持しながら、多様な誌面構成は今後とも追求していかなければなり

(2)査読 すでに作成した査読のファームを活用していきます。編集委員2名の査読のうち、査読責任者を決め、査読意見の統一を前提に執筆者と調整していきます。特集担当を除いてされますので、これまで以上に委員会としての機能強化と委員の役割分担をはっきりさせていきます。

(3)柏書房との契約更改 発行部数、販売価格、発行時期、ページ数、配布形式など、契約事項に定められた内容に関して相互に違反や契約不履行はありませんでした。当初の契約期で再契約をお願いするのがベストではないかと思われます。別紙の契約書につきご検討ください。

(4)編集委員会の独自企画 本誌の合評会の企画や巻頭インタビューの出版などが考えられます。

(5)その他 必要に応じて副編集長を置くこと、編集委員の過剰な負担を避けるため任期制の導入も検討 課題です。

【資料6】カンファレンス委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

カンファレンス委員会の役割 カンファレンス委員会は次の役割を果たしています。(1) PCカンファレンスの企画運営 (2) 日常的な研究会および講演会等の企画運営を行うこと
日常的な企画では、第5回から第11回の7回の研究会を企画・開催しました。そのうち、第5回と第6回の研究会については既に昨年の総会で報告済みです。

◆1998年度活動

(1) 98PCカンファレンス 1998年7月28日～30日 於：日本福祉大学半田キャンパス 全体テーマ：「コンピュータ利用教育の現状と課題ーコンピュータネットワークの普及の中でのようになったが、その当時から私たちは情報処理教育や情報リテラシーの育成などについて、様々な工夫と努力を重ねてきています。ところが、その間にWindows95や OS8が発表善されてきたにもかかわらず、教員や学生が抱えている基本的な問題はあまり改善されていないかのように感じられます。そこで、98 P Cカンファレンスの全体テーマとしては、カンう意味合いを込めて「コンピュータ利用教育の現状と課題」とし、これにこの5年間に於いて一番大きな環境変化である「ーコンピュータネットワークの普及の中でー」という副題を

シンポジウム：7月29日（水）13：30～17：00

「コンピュータ利用教育の原点をさぐる -----教える側と学ぶ側からの問題提起-----」

私たちがコンピュータ利用による教育を行う上で、10年以上前からの教育実践の中でのさまざまな試みにもかかわらず、ポイントとなる「基本的問題」は大して変わっていないよなる教育であれ、教員の創意工夫が無ければ良い教育は成立しないという問題です。もう一つのポイントは欧米と基本的に異なっている点として日本にはキーボード文化が存在しないして大きな障壁となっているという問題です。そこで、今年のPCカンファレンスでは、教育工学の分野で精力的にご活躍中の赤堀先生（東工大 教授）とキーボード教育に関して精塾大教授）のお二人をパネリストに迎えて、「コンピュータ利用教育の原点をさぐるー教える側と学ぶ側からの問題提起ー」というテーマでシンポジウムを企画しています。パネリス育を支える立場として大学生協から、また、学ぶ側の立場として学生・院生からそれぞれ1名の報告者を加えて、教育場面におけるコンピュータ事情で、何がどう欠けているかを考え、もに、新しい学びを創造していく方向を見つけ出したいと思います。

パネリスト：

赤堀 侃司氏（東京工業大学 教育工学開発センター教授） 大岩 元氏（慶応義塾大学 環境情報学部教授） 岡安 喜三郎氏（全国大学生協連 副会長） 倉本 到氏（大阪大学大学京大学法学部学生）

司 会：小林 昭三氏（新潟大学 教育人間科学部教授） 三根 浩氏（同志社女子大学 短期大学部教授）

(2) 日常的な研究会 CIEC第 7回研究会 1998年10月31日（土） CIEC第 8回研究会 1998年11月28日（土） CIEC第 9回研究会 1998年12月26日（土） CIEC第10回研究会 会 1999年 3月13日（土） CIEC第11回研究会 Part II 1999年4月3日（土） CIEC第12回研究会 1999年5月29日（土） CIEC第13回研究会 1999年6月12日（土）

(3) ps-edの設置 「小中高等学校での新しい学びの創造」部会ーKー12と大学との壁を超えてー たち上げにむけてのプロジェクトの設置について

12月26日第9回研究会の前に、綾、生田、奥山、小野、武沢、三根、山田の各会員メンバーで 第7回～第9回の研究会における情報教育2000年問題に関わる研究会をどう発展さし問題意識を交換し合い、当面上記の部会（あるいは委員会）を作ることに合意しました。なお、このプロジェクトは99PCカンファレンスにおいて、連続分科会を企画し、今後PCでいく予定です。

(4) 報告集 98PCCシンポジウムの報告集を発行した。タイトル：「コンピュータ利用教育の原点をさぐるー教える側と学ぶ側からの問題提起」 価格：500円

◆1999年度活動方針

(1)99PCCについて 以下のテーマを設定して、99年度は信州大学工学部キャンパスで PCカンファレンスが開催されます。○全体テーマ "Beyond (越えて) " ○ポスター・キャッチ：長野です。」 ○シンポジウム・テーマ 「コンピュータ・ネットワークの新しい可能性」（詳細については、99PCカンファレンスのリーフまたは予稿集をご覧ください）

資料：研究会

○CIEC第7回研究会（Newsletter 別冊3掲載） 1998年10月31日（土）14時～17時40分 大学生協会館 テーマ：「情報教育の2000年問題」 --教育の一貫性の中での高校にお

1.「高校における情報教育の現状と問題点」 --進学とのかかわり、現場教師の状況、高校生の 求めるもの-- 飯田 満氏 （都立青山高校）

2.「大学の情報教育から初等中等教育に何を求めるか」 --大学教育はどこを変えるべきか-- 生田 茂氏 （東京都立大学）

コーディネーター：綾 皓二郎氏 （石巻専修大学） 山田 祐仁氏 （京都工芸大学）

○CIEC第8回研究会（NewsletterNO.9掲載）1998年11月28日（土）13時～17時 信州大学工学部長野キャンパス

テーマ：「小中高における新しい学びと大学の連携」 ～情報教育の2000年問題に直面して～

1. 「半田市立亀崎小学校におけるインターネットの教育利用について」 (CIEC 会誌5号掲載) 丹波 信男氏 (半田市立小学校)

2. 「数学とコンピュータ、そしてネットワークへ」 細萱 永治氏 (長野県立木曽高校)

3. 「学校への支援体制をどう整えるか」--新しい学びへの支援-- 武沢 護氏 (神奈川県立教育センター)

4. 「問題提起：考えを深めるための仕掛けとしてのコンピュータ利用法を考える」

鈴木 尚通氏 (松商学園短期大学商学科)

司 者：矢部 正之氏 (信州大学医療技術短期大学)

○CIEC第9回研究会 (NewsletterNO13掲載) 1998年12月26日 (土) 13時～16時30分 大学生協会館 テーマ：「2003年に向けた初等中等教育における情報教育とCIECの役割」

大岩 元氏 (慶応義塾大学環境情報学部)

小林 昭三氏 (新潟大学教育人間科学部)

司 会：綾 皓二郎氏 (石巻専修大学)

○CIEC第10回研究会 1999年1月30日 (土) 13時～17時 大学生協会館 テーマ：「新しいテクノロジー」

1. 「ユーザーメードPCの現状と今後」 栗山 武久氏 (全国大学生協連合会)

2. 「無線LAN利用による学内ネットワークの構築」 関根 修氏 (日本NCR (株))

3. 「リアルオーディオやリアルビデオの技術動向と紹介」 田口 歩氏 (リアルネットワークス (株))

司 会：板倉 隆夫氏 (鹿児島大学)

事務局：中村 泰之氏 (全国大学生協連合会)

○CIEC第11回研究会 1999年3月13日 (土) 13:30～17:00 テーマ：「情報教育の2000年問題その3」 ◆b初等中等教育の一貫性の中の「高校普通科における独立教科“情報”

1. 「高校普通科における独立教科“情報”の内容について」 岡本 敏雄氏 (電気通信大学大学院情報システム学研究科)

2. 実状と実践報告 (1) 「私立高校における情報教育の実状」 佐藤 寛文氏・小山 俊宣氏 (私立八王子高等学校)

(2) 「小学校の情報教育 ―綾瀬市での取り組み―」 芝 利治氏 (神奈川県綾瀬市立綾西小学校)

(3) 「インターネットを使った教育実践」 斉藤 護氏 (杉並区立高井戸小学校)

○CIEC第11回Part II研究会 1999年4月3日 (土) 午後14時～17時

テーマ：「参加者が岡本敏雄先生に迫る“情報科”新設の課題」

岡本 敏雄氏 (電気通信大学大学院情報システム学研究科)

1. 2003年までの準備として文部省は何をどう行うのか 2. 2003年までの準備として現場は何をどう行うのか 3. 情報科の大学入試との関連について 4. その他

○CIEC第12回研究会 日時：1999年5月29日 (土) 午後13時～17時30分 場所：大学生協杉並会館2階会議室 内容：1. 「情報教育の目的と方法をめぐって」 市川

2. 実践報告 (1) 中高一貫教育の中での2003年情報教育 前島 昭弘氏 (晃華学園中学・高等学校) (2) 校内ネットワークを使った中学での (長野県塩尻中学校)

○CIEC第13回研究会 日時：1999年6月12日 (土) 午後13時～17時30分 場所：大学生協杉並会館 2階会議室 内容：「情報ネットワークの明日へ向けて」 林 英輔 (立教大学)

○99PCCの準備を兼ねて7月3日に第14回の研究会が行われます。

【資料7】プロジェクト事業活動

(1) 「CIEC TypingClub」 活動報告と今後の方針 昨年度は、Macintosh版に加えてWindows版が開発されましたが、今年度は、タイピング教育の中で一番の壁となる初期導入
田式練習メソッドを採用しました。さらに、補助教材として「紙のキーボード」(80頁)を出版しました。2000部印刷し、1000部以上が教科書として利用されました。 CIEC Typin
いる大学も5つほどあり、今までに無い学習効果を上げています。遊びの要素はありませんが、練習者が学習効果をすぐに自覚できるため、90分、あるいは180分の授業を通して練習
イアント型であり、成績一覧(ランキング)を見れることも練習者の意欲を高めています。指導教官にとっても、学生の練習量や学習効果を簡単に把握できるので好評です。 この機能
ストが企画されています。ネットワークを通して全国から参加できます。TypingClubサーバとしては、大学生協会館、九州大学、および鹿児島大学のWWWサーバが利用できます。ノ
トウェアの開発には、C言語のプログラミング、Unixサーバの管理、CGIスクリプトの制作、Winodws OS、Macintosh OS のそれぞれのパワーユーザが協力しており、開発チーム内
を越えています。 今まで、多くのユーザの声によって進化してきたわけですが、これからもCIECwareらしく、全国に広がるさらに多くのユーザから要望、アドバイスなどをいた
CIEC会員のご協力も得て、より良いものにしていきたいと思っています。

(2) 「小中高等学校での新しい学びの創造」部会 ―K-12と大学との壁を超えて― 活動報告と今後の方針

小中高等学校における新しい学習指導要領では「情報教育の推進」がうたわれていますが、 CIECではこの問題を「情報教育2000年問題」と位置づけ、昨年から研究会を実施してき
ち合わせにおいて、綾、生田、奥山、小野、三根、山田、武沢 の各メンバーで、今後この「情報教育2000年問題」に関する研究会をどのように発展させ、CIEC としてどのような役
会を設置し重点的に活動して いくことを決定しました。研究会では小中高等学校の教員にCIECへの積極的な参加を呼びかけ、課題解決に向けての活動を考えています。そして、今後
続分科会を企画し、PCカンファレンスならびに日常的な研究会活動を柱として部会を継続して いくつもりです。

(3) 「自然科学部会」 活動報告と今後の方針

自然科学部会はCIECサーバー内にホームページを立ち上げ、科学教育に役立つソフトを収集中です。現在のところ自発的申し出が1件も有りません。 今後は 99PCカンファレンスの
収集し、データベース化して行きたいと考えています。ある程度数が 集まればその後は 自律的に増殖するものと期待していす。 また、1999年のPCカンファレンス分科会「科学教育
ことになりました。自然科学部会 <http://www.ciec.or.jp/wg/science/default.html>

戻る

CIEC Decision document '99

◆1999年度CIEC定例総会報告

日時 1999年8月6日16時20分から17時10分 場所 信州大学工学部共通講義棟 102番教室 出席 本人出席 56名（個人会員52名、団体会員4） 書面出席78名、委任状に

議事

1. 総会成立の確認 ・会長より指名された司会者三根浩理事（同志社女子大教員）開会を宣言。司会者より会員数649名（568名、81団体）、成立要件65名以上の出席に対して、委
確認される故、総会は成立していることが告げられた。

2. 議長、副議長の選出 ・司会者より、理事会からの議長団推薦の紹介。議長に新潟大学の小林昭三会員、副議長に高知 女子大学の一色 健司会員の推薦が告げられ、ほかに立候補は

3. 奈良 久会長より開会のあいさつ

4. 議事運営に関して議長より提案 ・効率よい議事運営のために以下の提案があり、拍手で確認した。

提案-----役員選挙以外は連続して提案し、提案後一括して討議。 採択-----議案ごとに個別に採択、議案はすべて出席者の過半数の賛成で議決

5. 議案1 ・「98年度事業報告と99年度事業計画」の提案を信州大学の矢部正之副会長より行った。

6. 議案2・3・4 ・議案2「98年度収支報告」、議案3「98年度収支差額処分案」、議案4「99年度予算案の提案」を一括して立命館大学の松田 憲副会長より提案した。

7. 監査報告 ・議案2に関する監査報告を朝岡良平監事より行った。

8. 意見用紙の紹介と回答 ・書面議決とともに提出された6通の意見用紙の紹介と回答を矢部 正之 副会長より行った。

9. 討論 ・全議案を一括して行った。 議案2について意見。

学術団体とNPO法人と両立させられるかどうか前向きに検討して欲しい。

-----学術団体登録と法人化とは別個の問題として進めている。法人化問題は中期目標検討の中で 論議していく旨理事会より回答された。

10. 議案の採択 ・議長より議案採択の説明 採択は、議案ごとに連続して委任状含めて挙手で言い、出席者の過半数 の賛成で議決。 書面出席78を加算する。 議案1から4まで

11. 議案5 ・議案5「役員補欠選挙」について、議長より選挙管理委員会に報告を求めた。 石巻専修大学の綾皓二郎選挙管理委員長より以下が報告された。役員補欠選挙は、CIE
確認において行った。選挙権、被選挙権はともに、立候補の 締切までに98年度の会費を納入した方で、個人会員412名、団体会員72名、合計484名であった。 6月7日に選挙管理
学 榎 本一夫氏、京都工芸繊維大学 山田 祐仁氏の3名が任命された。6月15日-役員補欠選挙公示。6月30日-正午に 立候補締め切り。

立候補が定数内で立候補は生田 茂氏一名であったので、信任投票であることを選管で確認した。 また投票の方法は、すべて郵送によるものとし、7月1日に発送した。投票は7月1
開票は15時50分より、選管の管理のもとで立会人をおき厳正に行った。

開票の結果-----投票総数159票、有効投票155票、無効4票。過半数により信任された。

12. 役員承認 ・選管より報告された役員補欠選挙、及び役員補欠選挙の結果について拍手で確認された。

13. 新役員の紹介 ・会長より生田新役員の紹介を行った。

14. 閉会 ・17時10分 一色副議長よりすべての議事終了が告げられ、議長団の解任とCIEC99年度定例総会の 閉会が宣言された。（なお、総会の報告、理事の補欠選挙結果の報告が欠落していたことを選管、議長副議長の確認を得て、ここに補正した。） 定例総会の書面議決に添えて提出された意見書6通について、総会会場で、矢部副会長が回答して います

議案1：98年度事業報告と99年度の事業計画

1 98年度事業報告

本年度はCIECが設立されてから4回目の総会を迎えることができました。98年度はCIECの3年目に ふさわしい事業や活動が展開できた年として評価することができます。

まず、前進した事業について確認しておきます。第一は、CIECの研究大会としての位置づけを もつPCカンファレンスのいっそうの充実です。PCカンファレンスはCIECの設立以来、本年度は分科会報告だけで過去最高の90本の報告が集まり ました。報告内容も多様な分野にわたり、非常に充実したものとなっています。

第二は、CIEC研究会の充実です。本年度は計8回の研究会を実施しました。特に活発に行われた のが「小中高の情報教育」をめぐる研究会で、これには毎回会員以外にも多くの教員が恒常的に進めて行くために、「小中高等学校での新しい学びの創造 ―K-12と大学との壁を超えて」という部会が設立されました。

第三は、CIECタイピングクラブの取り組みの前進です。本年度は新しく増田式を組み入れた ウィンドウズ版が開発されました。現在、そのマック版の開発も進行中です。さらに、4月の新学期における利用は鹿児島大、純心女子短大、福岡 工業大、愛媛大といった一部の大学に限定されましたが、タイピングクラブが教育用ソフトとして 整備されるに当たって、

第四は、アップル株式会社と共催のセミナーの開催です。6月12日の東京での開催を皮切りに、一連のセミナーが開催されました。これは、団体会員との新しい形態の取り組みとし

第五は、学術団体登録です。これまでのCIECの活動実績を基礎に、本年5月に教育系学会として 登録申請をいたしました。本年度にすぐ認可されるかどうかはわかりませんが、もし

他方、個人・団体会員とも会員の拡大は依然として前進をみるできませんでした。現在の 個人会員数は<別表>のとおりです。本年度の新規加入個人会員74名、退会87名で、新規加入団体会員12団体、退会2団体です。今後、CIECの活動を 安定的に進め、さらにその活動を広げて行くためには、個人会員・団体会員の拡大をより意識的に 強めて行く必

なお、昨年度の総会においてCIECの中期的な目標を検討するためのワーキンググループを設置（「CIECのさらなる発展をめざすために、3年間の活動を総括し、新たな目標を確定」ため、「中期目標検討委員会」が設置されました。

2、99年度の事業計画 99年度においては、（1）委員会を軸とした活動を引き続き強化していくこと（2）個人会員・団体会員の拡大に積極的に取り組むこと、（3）「中期目標」中心的な課題になります。

（1）については、各委員会の報告において具体化されているので、ここでは具体的な内容について は省略しますが、特に2000年度においては、以下の点を目標にCIEC研究会の充実開催を増やします。 ・企業関係者が参加できる研究会を増やします ・恒常化できるものは部会として運営して行きます。

（2）の個人会員の拡大については、会員による勧誘と紹介が基本になります。この点を踏まえなが ら、運営委員会・理事会内においてしかるべき体制を整備します。団体会員につきやすい形態の企画を増やししながら、小口会員の拡大に努めます。

（3）については、「中間答申」を基礎に「答申」の完成をめざします。「中期目標検討委員会」での議論を基礎としながら、アンケート等を利用し、個人会員・団体会員全員の声が見え、意見も積極的に取り入れるようにします。

＜個人会員＞		
	会員数	構成比
教員	368	65.1
大学職員	24	4.3
院生	27	4.8
学生	7	1.2
生協職員	106	18.8
企業	21	3.7
研究員	5	0.9
その他	7	1.2
計	565	100
＜団体会員＞		
	団体会員数	構成比
企業	33	40.7
生協	48	59.3
計	81	100

【資料】

1998年度CIEC会計状況について

1.収入について 1) 会費収入

○個人会費----1998年4月1日～1999年3月31日間で、4000×65、3000×12の会員増です。「但し、会員数については、設立時呼びかけ人になったものの、会員としては続けていないものを削除したため、ほぼ昨年と同数になっている。」

○団体会費----不況の影響があって97～98年にかけて、団体会員の会費減額が300万円相当あった。当初、20口ほど、団体会員を拡大する予定で予算化したが、組織的取り組みがで

2) その他の収入 昨年より10万円強多く、予算とは同規模。ただし中身は広告掲載料ではなく、書籍の売り上げ等である。

○広告掲載料――意識的に集めることはできなかった。

○雑収入——「コンピュータ利用教育の新しい方向」の売り上げ収入、会誌抜き刷り収入その他である。

○プロジェクト事業収入――タッチタイピングテキストに関する収入である。

2.支出について 事業費 1) 会議費----昨年にくらべて140万円減、予算と比べて150万円減である。運営委員会を中心に、会誌編集委員会以外の各専門委員会を全面的に押さえた。

○総会――総会開催のための会員連絡費、監事会費用、役員選挙関係費など。

○理事会----98年は2回開催している。今後は役員選挙がない年は、年1回であとはメーリングリストでの討議とする。

○会議費について――運営委員会は当初数回を予定していたが、メーリングリスト会議に切り替えた。ネットワーク委員会、ソフトウェア委員会は各1回、国際活動委員会はメーリングリストを利用した。 (9月末から10月中旬にかけてのメールによる運営委員会、理事会の中で、会議費を極力削ってプロジェクト活動に経費を回す事を確認し、実行に移されたためである。) 2) 印刷費――昨年より大幅に削減された。組んだのは、取材費を別途確保したためである。実際はほぼ予算内である。3) ニュースレター発行費――昨年のほぼ倍、予算の23万円増。通常号4号の他、研究会の活発化に伴う、特別号2号の発行があった。4) 広報費――拡大リーフは97年度費用で作っているため、追加印刷分のみになっている。5) 研究会費――昨年の30万円増、予算の15万円増となっている。地域研究会はPCカンファレンス、三宅 なほみ氏講演会とシンポジウム。研究会は第5回から11回 パート2まで計8回実施、講師および報告者、世話人の交通費など、1回5～7万円相当が必要である。6) 調査費――研究会の調査費は、調査費を削減した。7) 事業活動費――昨年度管理費の中に含まれているのを、98年度では抜き出したもの。会長、副会長や理事の会議ではない事業活動をするより 打ち合わせに動くことの方が大きい。事業委託費は今後、増加の見込みです。8) プロジェクト事業費――昨年度は単年度事業費として組み立てている。9月～10月にかけてのプロジェクト事業費として、正予算として同規模を提案したが、98年度は、中期 目標検討ワーキンググループ、タッチタイピングと小中高大連携の情報教育 (学びの創造) 部会 たち上げプロジェクトに主要なエ

管理費

97年度は98年度の事業活動費60万円分を含んでいる。全体として予算とおりである。ネット ワーク運営費は、回線使用料が98年10月より値下げになったため抑制されている。事
れば、自然に増加するものであり、抑制は難しい。備品費は、主に、これまでMacintoshのみであった事務局のコンピュータに、会員の環境も考慮して、Windows機を 加えた費用で

予備費

CIEC設立時の商標登録の申請が調査に時間を要し、遅れて許可申請の費用が発生した。

監查報告書

CIEC（コンピュータ利用教育協議会） 会長 奈良 久 殿

監事 朝岡

私達は、CIEC（コンピュータ利用教育協議会）会則13条にもとづき、本会の第3年度（自1998年4月1日至1999年3月31日）収支計算書を監査しました。この監査にあたっては、必要に応じて関係機関等に協力を求め、関係者への説明を行いました。監査の結果、収支計算書は、正確であることを認めます。

繰越金処分ならびに予算報告書につきましては都合により省略させていただきました。詳細につきましては事務局までお問い合わせ下さい。

1999年度CIEC予算についての補足説明

1. CIEC理事会は、第3年度会計監査における監事会の監査意見を踏まえて、第4年度の予算案策定に当たって、以下のような改善を行った。
2. プロジェクト事業（単年度）の一環として、第3年度ではCIECタイピングクラブに対して50万円が支出された。

このソフトに採用した「増田式キーボード学習法」技術については、利用実績やその効果を判断した上で利用を継続するかどうかを判断することになるが、今後も利用を継続するとする。また、このソフトの普及に必要と認められる場合には、CIECの事業活動として、別個に独立した事業として実施する。今後は、一定数の利用者を確保し、この支払い費用を回収する必要があるため、CIEC本来の事業活動とは切り放し、別個に独立した事業として実施する。

「教育出版」の項目の細目は、今後の事業活動を見通して、書籍出版とタイピングクラブの2つとした。

3. その他は前年の基調を引継、会議費用を極力抑え、活動に力をいれる配分で組み立てている。

【資料1】CIEC活動日誌

1998年

7月10日	PCカンファレンスニュース9号発行
7月14日	PC連合会内会議。事務用品発注準備
7月17日	PCカンファレンスニュース10号発行
7月18日	企画調整会議
7月19日	大学生協政策討論集にブースを出す
7月21日	PCカンファレンス内局打ち合わせ会議
7月23日	名簿完成／しおり原稿集め完了／ニュースレター別冊発行
7月24日	役員選挙 開票
7月25日	書籍「教育におけるコンピュータ利用の新しい方向」発行
7月27日	97年第2回理事会／企画調整会議／PCカンファレンスニュース11号発行
7月28日	98年定例総会
7月28～30日	PCカンファレンス当日
8月3日	ブース出展社お礼状とアンケート発送
8月24日	ブースアンケートまとめ／宣伝まとめ
8月25日	98PCC連合会内会議
8月28日	カンファレンス企画調整会議
9月3日	98PCカンファレンス実行委員会
9月4日	98年第1回理事会CIEC拡大事務局会議／ニュースレター別冊（第5回研究会報告・総会報告）発送
9月11日	science@ciec.or.jpのMLを設定
9月16日	98PCカンファレンスまとめ確定
9月29日	大学図書館に会誌バックナンバー贈呈（この時期はPCカンファレンスに関する動きが半分以上をしめます）
10月1日	全国大学図書館へ会誌贈呈
10月3～4日	西日本教職員交流会（京都）ブースを出す
10月15日	ニュースレター8号発行
10月25日	山口大学講演会（三宅 なほみ氏講演とシンポジウム、CIECとしての講師派遣）／PCカンファレンス連合会内会議
10月31日	第7回研究会“情報教育の2000年問題”その1 99PCカンファレンス実行委員会準備会
11月14・15日	北甲ブロック教職員交流会（長野開催の協力依頼）
11月28日	第8回研究会 99PCカンファレンス第1回実行委員会（開催日程・テーマ・運営体制等）
12月2日	会誌VOL 5発送
12月11日	PCカンファレンス連合会内会議
12月17日	ニュースレター別冊NO3（第7回研究会）発行 98PCカンファレンス報告集発行／99PCC開催案内／レポート募集案内発送
12月19・20日	全国大学生協連第42回通常総会（ブースとセッションをひらく）
12月24日	PCカンファレンス連合会内会議
12月26日	中期目標検討ワーキンググループ／小中高校、大学の情報教育プロジェクト 世話人会 第9回研究会「2003年に向けた初等中等教育における情報教育とCIECの役割」

1999年

1月13日	PCカンファレンス連合会内会議
1月19日	会誌保管用朝霞倉庫／東洋大生協訪問
1月21日	PCカンファレンスニュース NO1発行
1月22日	PCカンファレンス連合会内会議
1月23日	教育工学研究会（長野）で、PCカンファレンスの呼びかけ 矢部副会長
1月26日	PCカンファレンス連合会内会議
1月27日	会誌 VOL6 村井先生インタビュー
1月30日	第10回研究会「新しいテクノロジー」 第2回PCカンファレンス企画運営委員会／ネットワーク委員会
2月9日	学術研究団体申し込み説明会（事務局参加）
2月10日	PCカンファレンスニュース NO2
2月15日	PCカンファレンス連合会内会議
2月19日	PCカンファレンス分科会司会者募集CIECメーリングリストへ
2月23日	CIEC／PCカンファレンス メーカー説明会（奈良会長、小林専務）
2月26日	PCカンファレンスニュース NO3
3月2日	PCカンファレンス連合会内会議
3月8日	会誌 VOL6 特集座談会
3月10日	八王子高校訪問（生田世話人、事務局）

3月13日	第11回研究会「情報教育の2000年問題その3」／小中高部会打ち合わせ
3月14日	PCカンファレンス分科会時間割編成会議
3月15日	分科会レポート採否連絡
3月19日	PCカンファレンス連合会内会議
3月20日	第3回PCカンファレンス企画運営委員会
3月21日	会誌編集委員会
3月27日	経済教育学会にて「コンピュータ教育のあたらしい方向」紹介 湯浅理事
3月29日	CIEC TypingClub準備と宣伝
4月3日	CIEC事務局会議、CIEC第11回パート2研究会「情報教育の2000年問題その3」
4月8日	PCカンファレンスニュース NO4
4月12日	'99PCカンファレンス参加者募集開始
4月14日	ニューズレターNO9入稿（会費請求書同封）
4月15日	PCカンファレンス内局会議
4月20日	ニューズレターNO.9発送、PCカンファレンスリーフ掲載原稿締切、 青山学院高等部訪問
4月21日	PCカンファレンスポスター、ちらし出来上
4月22日	中期目標検討ワーキンググループ
4月30日	1998年度CIEC会計監査
5月7日	PCカンファレンスニュースNO4／ホームページ追加修正／学術団体登録申請 準備
5月8日	PCカンファレンスリーフ入稿／PCカンファレンス受付名簿等準備
5月10日	PCカンファレンス内局会議
5月11日	会費の自動引き落とし用データ準備
5月13日	首都圏の大学にPCカンファレンス案内送
5月14日	PCCリーフ出来上がり
5月17日	PCカンファレンス出展メーカーに資料送付
5月18日	各大学生協にPCCちらし／リーフ発送
5月20日	CIEC会計監査／運営委員会に向けて各専門委員会の活動のまとめの準備要請
5月21日	日本学術会議への団体登録申請 受付No.441／長野版チラシ作成
5月25日	会誌Vol.6発行 会員・執筆者へ発送
5月26日	会費納入リスト作成
5月27日	PCカンファレンス内局会議
5月28日	CIEC運営委員会、研究会資料作成
5月29日	CIEC第12回研究会／PCカンファレンス第4回企画運営委員会
6月3日	PCC長野打ち合わせ
6月4日	ホームページにお知らせ追加
6月7日	分科会司会者決め
6月8日	PCカンファレンス出展メーカーとの交渉
6月10日	PCカンファレンス連合会内会議
6月12日	CIEC第13回研究会／アップル社との共催セミナー /ps-ed 世話人会開催／選挙管理委員会
6月13日	ネットデイ長野県塩尻中学校
6月14日	長野版リーフ作成
6月15日	役員補欠選挙公示／選挙公示はがき郵送
6月23日	CIEC宣伝用拡大リーフ作成（新）
6月24日	PCカンファレンス連合会内会議
6月25日	PCC長野実行委員会
6月26日	アップルセミナー（大阪）CIEC共催
6月30日	PCC予稿集原稿締め／役員補欠選挙立候補締め
7月1日	総会資料／投票用紙発送

メーリングリストでの決定事項

◆運営委員会◆

98.9.28提案/10.7確認 [execucomm 00149] 予算の執行とプロジェクト活動について 9月4日事務局会議での討議を経て、運営委員会で検討し監事会の見解も求めてからまとめまし

98.10.16提案/10.23確認 [execucomm 00155] 「CIECware宣言」 CIEC（コンピュータ利用教育協議会）は、教育・研究の現場において価値が認められる、あるいは、利用の可能（画像等も含む）の流通・共有化を支援するため、CIECという「知の協同組織」の中で生まれ育っていくソフトウェアやドキュメント（画像等も含む）を集積し、普及する活動を行
 ument（画像等も含む）を「CIECware」という名称 で呼ぶことを提唱します。

98.12.1提案/12.8確認 [execucomm 00202] 「CIECTypingClub」増田式契約書 「増田式キーボード学習法」に関する技術の 利用に関して契約を締結しました。

98.12.18提案/12.25確認 [execucomm 00204] 「中期目標検討ワーキンググループ」 一色 健司（高知女子大学生生活科学部） 指宿 信（鹿児島大学法文学部法政策学科） 大野 ；野高等学校） 匠 英一（株式会社ヒューコム） 奈良 久（八戸工業大学工学部） 野澤 和典（立命館大学経済学部） 湯浅 良雄（愛媛大学法文学部） （50音順、敬称略） なお、確認されています。

・CIECの中期的な目標 ・団体としての組織のあり方 ・PCカンファレンスのあり方・総会のあり方 ・地域組織のあり方 ・団体会員のあり方 ・財政基盤の検討 ・その他

98.12.21提案/12.28確認 [execucomm 00209] 学術団体登録とISBNコードを登録

99.1.9提案/2.3確認 [execucomm 00218] 求人情報と求職情報の問い合わせについて

99.1.13提案/1.20確認[execucomm 00220] 新しいプロジェクトの設置について「小中高等学校での 新しい学びの創造」部会（仮称）－K-12と大学との壁を超えて－のたち上げが

99.1.19提案/1.26確認 [execucomm 00221] CIEC Typingclubの著作権使用について

99.2.3提案/2.10確認 [execucomm 00225] 求人求職情報の扱い修正案 について

99.5.9提案/5.20確認 [execucomm 00236] 決算状況の見通しと機材の購入について

99.5.10提案/5.16確認 [execucomm 00238] アップルからセミナー共催（6/12）の申し入れがあり受諾いたしました。

99.6.11提案/6.18確認 [execucomm 00248] CIECのネットデイ趣意書案について

99.6.22提案/6.29確認 [execucomm 00250] ホームページのつくりについて 総会、役員選挙など運営のコーナーの新設及び 項目の整理について助言がありました。

99.6.22提案/6.29確認 [execucomm 00252] 柏書房との覚え書き更新について

◆理 事 会◆

98.9.28提案/98.10.5確認 [directors 00057] 99PCカンファレンスCIEC選出実行委員 奈良 久、CIEC代表として／三根 浩、小野 進全体会・シンポジウム担当 若林 靖永、カーブス担当／矢部 正之 開催校選出として

98.10.8提案/10.15確認 [directors 00058] 予算の執行とプロジェクト活動について

98.10.31提案/11.19確認 [directors 00063] 中村理事、辞任願い提出。なお、中村 彰氏は、会誌編集委員としての活動を 継続されます。

98.11.25提案/12.2確認 [directors 00065] シンポジウム・テーマについて

98.12.24提案/99.1.8確認 [directors 00068] 中期目標検討のためのワーキンググループの設置についてこの議案は一人づつ 採否を問うています。

99.4.6提案／4.13確認 [directors 00097] 学術会議団体登録 98.12.28運営委員会において確認の後。

99.6.1提案/6.8確認 [directors 00101] 98年度の決算報告と99年度予算案 5.28の運営委員会において検討、作成されました。

99.6.1提案/6.7確認 [directors 00103][directors 00104] 補欠選挙の必要、及び理事会指名による選管任命の会長への一任。

【資料2】 ネットワーク利用委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

◆1998年度活動

1998年度の活動方針は、基本的にこれまでのネットワーク利用サービスの維持と増強を中心に 据えました。委員および事務局の努力で情報更新の強化が計られ、新たなMLの利用別
現有のCIEC専用サーバに加え、新たなサーバが導入され、また、2000年問題への対応も 取られました。これらにより、通信速度の改善・サービスの増強と安定が計られました。

しかし、マルチメディアサービスやCIECware/text等の本格運用を目指しましたが、体制を固め きれず、ある程度の情報の蓄積は進んだものの、目標としたレベルまで至りません
た活動への支援も提案しましたが、2、3の例は取り組まれましたが、これについても、十分な活動ではありませんでした。積極的な会員への呼びかけが効果的に 行われなかった。

◆1999年度活動方針

基本的には、これまでのネットワーク利用サービスの維持と増強を中心に活動します。より 安定した、豊富なサービスの提供に努力します。

また、会員の多様な要望に応えられる、ハードおよびソフト・運営の態勢を整えるとともに、 会員の積極的な関与が得られるような広報等を検討します。

継続した課題であるマルチメディア サービスやCIECware/textの取り組みについて、会員、各委員会の協力の下充実に努めます。

【資料3】 ソフトウェア委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

◆1998年度活動

1998年度は以下の方針のもとに活動を行いました。(1)「ソフトウェア・レビューと交流の 広場」の設置と推進 (2)CIECware活動の推進 (3)CIEC会誌ソフトウェアレビューの担当の検討

以上の方針に対し昨年度は以下のような状況でした。

(1)「ソフトウェア・レビューと交流の広場」の設置と推進

十分な準備を進めることができなかったため、活動の展開を行うことができませんでした。

(2)CIECware活動の推進

「CIECware活動」の理念とCIECware/textの取り扱いを明示した「CIECware宣言」を成文化して公表し、CIECware活動の指針を定めました。また、CIECの1998年度プロジェクトにおいて取り扱ったタッチタイプ練習用ソフトウェアをCIECwareの先行事例として位置付けて、その普及に取り組みました。

(3)CIEC会誌ソフトウェアレビューの担当 会誌第5号および第6号のソフトウェアレビューを担当しました。しかし、(1)「ソフトウェア・レビューと交流の広場」の活動の停滞もに有用なソフトウェアを発掘し広く紹介する活動に発展させることができませんでした。

(4)CIECとしてのソフトウェア開発のあり方の検討

外部からの開発資金の導入、教育ソフト開発などを目的にした産学協同プロジェクトへの支援体制の整備などの提案がありましたが、検討は進みませんでした。

◆1999年度活動方針

1998年の振り返りをふまえ、1999年度は以下を重点として活動を進めます。(1)ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動の推進、電子メール、ネットニュース、ウェブページな利用して、ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動を進めます。

(2)CIECware活動の推進

引き続き、先行事例の推進による経験の蓄積を行うとともに、「CIECware宣言」の普及を行いながら、CIECware活動を推進します。

(3)CIEC会誌ソフトウェアレビューの担当

ソフトウェア情報の交換、交流、評価活動の成果の中から総合的な内容のソフトウェアレビューが生み出されてくることを期待しつつ、引き続きCIEC会誌ソフトウェアレビュー欄の

【資料4】国際活動委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

◆1998年度活動

(1)海外研究団体、学会などからの最新の情報の入手と会員への提供の取り組み

会員の海外学会での活動や調査活動で得られた最新の情報を、メーリングリストや会誌などの場を通じて交流する。

CIECの国際活動委員会のWebページを改善し、コンピュータ利用・教育に関連した国際学会の開催情報などの提供を会員の協力を得て行った。

(2)海外学会、研究団体との交流活動

CIECとしての海外派遣調査は出来なかったが、奈良会長が、1月29日韓国のWoosuk大学で開催された研究学会に招聘され、「日本の情報教育2000年問題」のテーマで発表がなされた。

◆1999年度活動方針

(1)海外研究団体、学会などからの最新の情報の入手

コンピュータとネットワークを活用した新しい共同学習型教育の事例調査を今後も進めていく。

(2)海外研究団体、学会との交流、研究会や講演会の開催 直接海外に出かけて調査するだけでなく、CIEC会員が海外出張や留学などで得られている情報を共有するシステム作りをホームページなどを利用して、検討する。カンファレンス委員会と共同の取り組みとして、海外研究団体、学会等の状況を知らせるための研究会や講演会を開催する。

(3)CIECのWWWホームページを活用した広報、情報交流活動

【資料5】会誌編集委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

◆1998年度活動

(1)総括 『コンピュータ&エデュケーション』誌は、これまでに6号(創刊準備号を含めれば7号)を刊行することができました。いまや本誌は、対外的にはCIECの顔として、また：役割を担うようになりました。発行部数は3500部で、このうち1500部が会員用、2000部が市販用として活用されています。市販用は創刊号以来、発行元の柏書房ルートを通じていまでは安定した、着実な売れ行きとのことで、「学術書としては健闘している」との評価をいただきました(売上実数は別紙資料を参照ください)。

(2)編集体制 第3号より特集責任体制にしました。これは各編集委員の専門性を発揮しながら独自の観点から編集するという趣旨でした。各号につき、特集にふさわしい内容となつて委員が2名増えました。比較的手薄だった文科系および英語論文と英文 サマリーへの対応を脱んだ語学系の委員にお願いしました。査読については雛形を作成し、査読者による個々の懇切丁寧な査読もあり、査読を通じた研究交流も成果としてあげられます。

(3)巻頭インタビュー 第2号から「巻頭インタビュー」を常設しました。読み物としての性格と問題提起をしてもらうという趣旨はその後一貫し、本誌のひとつの看板になりつつあります。第2号・坂村 健、第3号・中西 秀彦、第4号・古瀬 幸広、第5号・奥山 賢一、第6号・村井 純。今後、計画的に語り手を確保すること、内容によってはインタビューの複

(4)特集 創刊準備号以来、各号において特集を組んできました。創刊準備号では「米国と日本の高等 教育におけるコンピュータ利用教育の実際」、第1号では「コンピュータ利用教育の実際」、第3号では「日本の大学における外国語教育」、第4号では「自然科学教育へのコンピュータの利用」、第5号では「小・中・高校における新しい 学びの紹介」、第6号では「外国語教育の国際化」を特集としました。上記のように、第3号から特集責任体制のもと、編集委員の一人が持ち回りで担当することになりました。各編集 委員の創意溢れるテーマのもと、論点を握り下げた追求が可能となり、誌の特色を示す企画として好評であり、今後とも多様なテーマを追求していくことが 期待されます。

(5)論文・活用事例・ソフト紹介など 巻頭インタビュー、特集を除く常設欄は、論文・活用事例・ソフト紹介です。論文は、創刊準備号7本、第1号3本（ほかに5本の事例研究）、第2号3本、第6号7本です。活用事例は、創刊準備号3本、第1号4本、第2号5本、第3号1本、第4号1本、第5号1本、第6号1本です。ソフト紹介は、創刊準備号5本、第1号4本、第2号2本、第3号2本、第4号2本、第5号2本、第6号2本です。発行当初はほとんどすべてが依頼稿でした。徐々に投稿が増え、第6号では論文・活用事例はすべて投稿で構成されました。論文・活用事例は、投稿後の査読によって割り当てられ、掲載される誌面構成を考えると、活用事例の充実是不可欠です。第5号より「新刊紹介」コーナーを新設しました。取り上げた出版社から書籍の寄贈があったほか、会員外からも本誌の普及にも力になるはずと見込みました。ソフト紹介は、ソフト委員会と連携をとりながら、使用する側からの検証という点を重視して、掲載してきました。ソフト委員会の活動の発表の場として、

(6) 広告・宣伝 柏書房の出版案内のなかで、本誌が紹介されてきました。編集委員会としては第5号刊行後数冊の雑誌に独自広告（約10万円）を出しました。

(7)既刊号の保存 会員用の残部および柏書房分の在庫につき、この度保存場所を確保できました。本誌の普及のために見本誌としての活用、研究会・学会時の販売用として一定有効

(8)事務局体制 テープ起こし・校正・執筆者と査読者との連絡など多様な業務を遂行していただきました。第6号まで無事発行には編集委員の努力もさることながら事務局の力が大きいと思います。

(9)その他 毎号、予想以上に抜刷希望が多くなってきたため、第6号から制作量実費の1割を手数料として お願いすることになりました。本誌の出来上がりとともに執筆者に注文

◆1999年度活動方針

(1)編集体制と誌面構成 これまでの編集体制と誌面構成を基本的に踏襲していきます。年間約20本の投稿が安定発行の条件になりますので、PCカンファレンスを中心に、編集委員が必要です。研究会（カンファレンスを含む）に合評会を組み込む、あるいはウェブとの連携をはかるなど、いままでの経験をふまえた新しい企画も大事です。また、特集などで執筆をお願いする第7号より編集委員会として「依頼書」を作成して対応していきます。事務局との連絡を密にするために、都内と周辺の編集委員の人数を増やし、事務局への助言・サポート体制を協賛員の執筆者は2名だけであり、CIECの構成メンバーに比例したものとはなっていませんでした。学術的側面を保持しながら、多様な誌面構成は今後も追求していかなければなり

(2)査読　すでに作成した査読のファームを活用していきます。編集委員2名の査読のうち、査読責任者を決め、査読意見の統一を前提に執筆者と調整していきます。特集担当を除いては、これまで以上に委員会としての機能強化と委員の役割分担をはっきりさせていきます。

(3) 柏書房との契約更改 発行部数、販売価格、発行時期、ページ数、配布形式など、契約事項に定められた内容に関して相互に違反や契約不履行はありませんでした。当初の契約期
て再契約をお願いするのがベストではないかと思われます。別紙の契約書につきご検討ください。

(4)編集委員会の独自企画 本誌の合評会の企画や巻頭インタビューの出版などが考えられます。

(5)その他 必要に応じて副編集長を置くこと、編集委員の過剰な負担を避けるため任期制の導入も検討 課題です。

【資料6】カンファレンス委員会

1998年度活動及び1999年度活動方針

カンファレンス委員会の役割 カンファレンス委員会は次の役割を果たしています。(1) PCカンファレンスの企画運営 (2) 日常的な研究会および講演会等の企画運営を行うこと

日常的な企画では、第5回から第11回の7回の研究会を企画・開催しました。そのうち、第5回と第6回の研究会については既に昨年の総会で報告済みです。

◆1998年度活動

(1) 98PCカンファレンス 1998年7月28日～30日 於：日本福祉大学半田キャンパス 全体テーマ：「コンピュータ利用教育の現状と課題ーコンピュータネットワークの普及の中でー」
 ようになったが、その当時から私たちは情報処理教育や情報リテラシーの育成などについて、様々な工夫と努力を重ねてきています。ところが、その間にWindows95や OS8が発表
 善されてきたにもかかわらず、教員や学生が抱えている基本的な問題はあまり改善されていないかのように感じられます。そこで、98PCカンファレンスの全体テーマとしては、カン
 う意味合いを込めて「コンピュータ利用教育の現状と課題」とし、これにこの5年間に於いて一番大きな環境変化である「ーコンピュータネットワークの普及の中でー」という副題を

シンポジウム：7月29日（水）13：30～17：00

「コンピュータ利用教育の原点をさぐる」

私たちがコンピュータ利用による教育を行う上で、10年以上前からの教育実践の中でのさまざまな試みにもかかわらず、ポイントとなる「基本的問題」は大して変わっていないように思われます。これは、コンピュータが普及する以前からある教育であれ、教員の創意工夫が無ければ良い教育は成立しないという問題です。もう一つのポイントは欧米と基本的に異なっている点として日本にはキーボード文化が存在しないという点です。キーボード文化の欠如は、コンピュータを授業に活用しようとするときに大きな障壁となっているという問題です。そこで、今年のPCカンファレンスでは、教育学分野で精力的にご活躍中の赤堀先生（東工大 教授）とキーボード教育に関して精進中である本学工学部教授のお二人をパネリストに迎えて、「コンピュータ利用教育の原点をさぐる-教える側と学ぶ側からの問題提起-」というテーマでシンポジウムを企画しています。パネリストの両名は、コンピュータ教育を支える立場として大学生協から、また、学ぶ側の立場として学生・院生からそれぞれ1名の報告者を加えて、教育場面におけるコンピュータ事情で、何がどう欠けているかを考える機会をもちたいと思います。

パネリスト：

赤堀 侃司氏（東京工業大学 教育工学開発センター教授） 大岩 元氏（慶応義塾大学 環境情報学部教授） 岡安 喜三郎氏（全国大学生協連 副会長） 倉本 到氏（大阪大学大学京大学法学部学生）

司 会：小林 昭三氏（新潟大学 教育人間科学部教授） 三根 浩氏（同志社女子大学 短期大学部教授）

（2）日常的な研究会 CIEC第 7回研究会 1998年10月31日（土） CIEC第 8回研究会 1998年11月28日（土） CIEC第 9回研究会 1998年12月26日（土） CIEC第10回研究会 会 1999年 3月13日（土） CIEC第11回研究会 Part II 1999年4月3日（土） CIEC第12回研究会 1999年5月29日（土） CIEC第13回研究会 1999年6月12日（土）

（3）ps-edの設置 「小中高等学校での新しい学びの創造」部会 ←K-12と大学との壁を超えて→ たち上げにむけてのプロジェクトの設置について

12月26日第9回研究会の前に、綾、生田、奥山、小野、武沢、三根、山田の各会員メンバーで 第7回～第9回の研究会における情報教育2000年問題に関わる研究会をどう発展させ問題意識を交換し合い、当面上記の部会（あるいは委員会）を 作ることに合意しました。 なお、このプロジェクトは99PCカンファレンスにおいて、連続分科会を企画し、今後PCでいく予定です。

（4）報告集 98PCCシンポジウムの報告集を発行した。 タイトル：「コンピュータ利用教育の原点をさぐる---教える側と学ぶ側からの問題提起」 価格：500円

◆1999年度活動方針

(1)99PCCについて 以下のテーマを設定して、99年度は信州大学工学部キャンパスで PCカンファレンスが開催されます。 ○全体テーマ "Beyond（越えて）" ○ポスター・キャッチ：長野です。」 ○シンポジウム・テーマ 「コンピュータ・ネットワークの新しい可能性」（詳細については、 99PCカンファレンスのリーフまたは予稿集をご覧ください）

資料：研究会

○CIEC第7回研究会（Newsletter 別冊3掲載） 1998年10月31日（土）14時～17時40分 大学生協会館 テーマ：「情報教育の2000年問題」 --教育の一貫性の中での高校にお

1. 「高校における情報教育の現状と問題点」 --進学とのかかわり、現場教師の状況、高校生の 求めるもの-- 飯田 満氏 （都立青山高校）

2. 「大学の情報教育から初等中等教育に何を求めるか」 --大学教育はどこを変えるべきか-- 生田 茂氏 （東京都立大学）

コーディネーター：綾 皓二郎氏 （石巻専修大学） 山田 祐仁氏 （京都工芸大学）

○CIEC第8回研究会（NewsletterNO.9掲載）1998年11月28日（土）13時～17時 信州大学工学部長野キャンパス

テーマ：「小中高における新しい学びと大学の連携」 ～情報教育の2000年問題に直面して～

1. 「半田市立亀崎小学校におけるインターネットの教育利用について」 (CIEC 会誌5号掲載) 丹波 信男氏 （半田市立小学校）

2. 「数学とコンピュータ、そしてネットワークへ」 細萱 永治氏 （長野県立木曽高校）

3. 「学校への支援体制をどう整えるか」 --新しい学びへの支援-- 武沢 護氏 （神奈川県立教育センター）

4. 「問題提起：考えを深めるための仕掛けとしてのコンピュータ利用法を考える」

鈴木 尚通氏 （松商学園短期大学商学科）

司 者：矢部 正之氏 （信州大学医療技術短期大学）

○CIEC第9回研究会（ NewsletterNO.13掲載） 1998年12月26日（土）13時～16時30分 大学生協会館 テーマ：「2003年に向けた初等中等教育における情報教育とCIECの役割

大岩 元氏 （慶応義塾大学環境情報学部）

小林 昭三氏 （新潟大学教育人間科学部）

司 会：綾 皓二郎氏 （石巻専修大学）

○CIEC第10回研究会 1999年1月30日（土）13時～17時 大学生協会館 テーマ：「新しいテクノロジー」

1. 「ユーザーメイドPCの現状と今後」 栗山 武久氏 （全国大学生協連会）

2. 「無線LAN利用による学内ネットワークの構築」 関根 修氏 （日本NCR（株））

3. 「リアルオーディオやリアルビデオの技術動向と紹介」 田口 歩氏 （リアルネットワークス（株））

司 会：板倉 隆夫氏 （鹿児島大学）

事務局：中村 泰之氏 （全国大学生協連会）

○CIEC第11回研究会 1999年3月13日(土) 13:30～17:00 テーマ:「情報教育の2000年問題その3」 ◆b初等中等教育の一貫性の中の「高校普通科における独立教科“情報”

1. 「高校普通科における独立教科“情報”の内容について」 岡本 敏雄氏 (電気通信大学大学院情報システム学研究所)
2. 実状と実践報告 (1) 「私立高校における情報教育の実状」 佐藤 寛文氏・小山 俊宣氏 (私立八王子高等学校)
- (2) 「小学校の情報教育 ―綾瀬市での取り組み―」 芝 利治氏 (神奈川県綾瀬市立綾西小学校)
- (3) 「インターネットを使った教育実践」 斉藤 護氏 (杉並区立高井戸小学校)

○CIEC第11回Part II研究会 1999年4月3日(土) 午後14時～17時

テーマ:「参加者が岡本敏雄先生に迫る“情報科”新設の課題」

岡本 敏雄氏 (電気通信大学大学院情報システム学研究所)

- 1.2003年までの準備として文部省は何をどう行うのか 2.2003年までの準備として現場は何をどう行うのか 3.情報科の大学入試との関連について 4.その他

○ CIEC第12回研究会 日時: 1999年5月29日(土) 午後13時～17時30分 場所: 大学生協杉並会館2階会議室 内容: 1.「情報教育の目的と方法をめぐって」 市川

2. 実践報告 (1) 中高一貫教育の中での2003年情報教育 前島 昭弘氏 (晃華学園中学・高等学校) (2) 校内ネットワークを使った中学での (長野県塩尻中学校)

○CIEC第13回研究会 日時: 1999年6月12日(土) 午後13時～17時30分 場所: 大学生協杉並会館 2階会議室 内容: 「情報ネットワークの明日へ向けて」 林 英輔 (立教大学)

○99PCCの準備を兼ねて7月3日に第14回の研究会が行われます。

【資料7】プロジェクト事業活動

(1) 「CIEC TypingClub」 活動報告と今後の方針 昨年度は、Macintosh版に加えてWindows版が開発されましたが、今年度は、タイピング教育の中で一番の壁となる初期導入田式練習メソッドを採用しました。さらに、補助教材として「紙のキーボード」(80頁)を出版しました。2000部印刷し、1000部以上が教科書として利用されました。 CIEC Typin いる大学も5つほどあり、今までに無い学習効果を上げています。遊びの要素はありませんが、練習者が学習効果をすぐに自覚できるため、90分、あるいは180分の授業を通して練習 イアント型であり、成績一覧(ランキング)を見れることも練習者の意欲を高めています。指導教官にとっても、学生の練習量や学習効果を簡単に把握できるので好評です。 この機能 ストが企画されています。ネットワークを通して全国から参加できます。TypingClubサーバとしては、大学生協会館、九州大学、および鹿児島大学のWWWサーバが利用できます。 トウェアの開発には、C言語のプログラミング、Unixサーバの管理、CGIスクリプトの制作、Winodws OS、Macintosh OS のそれぞれのパワーユーザが協力しており、開発チーム内 を越えています。 今まで、多くのユーザの声によって進化してきたわけですが、これからもCIECwareらしく、全国に広がるさらに多くのユーザから要望、アドバイスなどをいた CIEC会員のご協力も得て、より良いものにしていきたいと思っています。

(2) 「小中高等学校での新しい学びの創造」部会 ―K-12と大学との壁を超えて― 活動報告と今後の方針

小中高等学校における新しい学習指導要領では「情報教育の推進」がうたわれていますが、CIECではこの問題を「情報教育2000年問題」と位置づけ、昨年から研究会を実施してき ち合わせにおいて、綾、生田、奥山、小野、三根、山田、武沢 の各メンバーで、今後この「情報教育2000年問題」に関する研究会をどのように発展させ、CIEC としてどのような役 会を設置し重点的に活動していくことを決定しました。研究会では小中高等学校の教員にCIECへの積極的な参加を呼びかけ、課題解決に向けての活動を考えています。そして、今後 統分科会を企画し、PCカンファレンスならびに日常的な研究会活動を柱として部会を継続していくつもりです。

(3) 「自然科学部会」 活動報告と今後の方針

自然科学部会はCIECサーバー内にホームページを立ち上げ、科学教育に役立つソフトを収集中です。現在のところ自発的申し出が1件も有りません。 今後は 99PCカンファレンスの 収集し、データベース化して行きたいと考えています。ある程度数が 集まればその後は 自律的に増殖するものと期待しています。 また、1999年のPCカンファレンス分科会「科学教育 ことになりました。自然科学部会 <http://www.ciec.or.jp/wg/science/default.html>